

農業技術情報

令和8年6月17日

ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝普及センター十勝東部支所 015-572-3128
JA幕別町 0155-54-4118
JA札内 56-2131
JA帯広大正 64-4591
日甜幕別原料事務所 54-2756
幕別町農林課 54-6605

★各作物の生育・作業の遅速（幕別町：6月15日現在）（ ）内は平年値

作物名	遅速日数	生育および作業状況	生育期節
秋まき小麦	早3	草丈 77.4 (79.3)cm 茎数 654 (685)本/m ²	出穂始 5/27 (5/30) 出穂期 5/30 (6/2) 出穂揃 6/2 (6/4)
馬鈴しょ	早2	茎長 15.4 (20.7)cm 茎数 3.9 (3.6)本	着蕾期 6/9 (6/11)
大豆	早2	茎長 9.4 (9.3)cm 葉数 1.7 (1.3)枚	出芽期 5/25 (5/26)
小豆	早1	茎長 3.0 (3.0)cm 葉数 0.5 (0.4)枚	出芽始 5/29 (5/31) 出芽期 6/2 (6/3)
菜豆（金時）	±0	茎長 8.5 (6.8)cm 葉数 1.1 (0.6)枚 は種終 6/6 (6/4)	出芽始 6/8 (6/6) 出芽期 6/10 (6/8)
てん菜（移植）	早3	草丈 36.7 (30.0)cm 葉数 16.6 (16.0)枚	
てん菜（直播）	早2	草丈 17.3 (15.9)cm 葉数 10.9 (10.0)枚	
牧草	早2	草丈 101.2 (100.7)cm 1番収穫始 6/10 (6/10)	出穂始 6/4 (6/5) 出穂期 6/9 (6/11)
飼料用とうもろこし	早1	草丈 37.6 (35.2)cm 葉数 6.9 (6.9)枚	
ながいも（マルチ）			萌芽期 6/4 (6/10)
たまねぎ	早2	草丈 33.7cm (31.7)cm 生葉数 5.7 (5.4)枚 葉鞘径 10.0 (9.7)mm	

薬剤使用にあたっては、各部会や販売先等の基準に従ってください。

薬量および倍率は基準内に抑え、薬害やドリフトには十分注意してください。

畑 作

< 麦 類 >

1 「赤かび病」の防除

秋まき小麦でほ場内の生育が早い部分に合わせて1回目の防除を実施した場合は、生育が遅い部分や、既に使用した薬剤の使用回数等を考慮し、2回目以降の防除を実施してください。

臨機で4回目の防除(チルト乳剤)が必要になることが予想される場合、耐性菌の産生を防ぐため3回目の薬剤は別系統の「プライア水和剤」等を選択します。ただし、収穫前日数に十分注意します。

表1 赤かび病の防除薬剤例

防除時期		農薬名	RACコード※	使用濃度(倍)	使用時期	回数(以内)	
秋小麦	2回目	1回目の7日後	ミラビスフロアブル	7	1,500	収穫7日前まで	2回
	3回目	2回目の7~10日後	バラライカ水和剤※1	M4・3	500	収穫14日前まで	2回
または プライア水和剤			10・1	1,000	収穫21日前まで	2回	
	臨機		チルト乳剤25	3	1,000~2,000	収穫3日前まで	3回

※1 バラライカ水和剤は、硝酸カルシウムと混用する際は下記の順で混用下さい。

①バラライカ水和剤 → ②硝酸カルシウム (物理性の問題のため)

※DMI剤(RACコード:3)は、周辺作物に薬害が生じる可能性があるため飛散に注意する。

※農薬の耐性・抵抗性の発達を防ぐため、作用点や作用機構から各農薬の有効成分を分類したものが「RACコード」です。「RACコード」が同じであれば、有効成分が異なっても同一系統の薬剤となり、連用となるので注意しましょう。

※「プライア水和剤」は収穫21日前までなので、特に使用時期には注意しましょう(例:7月15日収穫なら6月24日まで)。

2 「赤さび病」の防除

表2 赤さび病の防除薬剤例

薬剤名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期	回数(以内)
ミリオネアフロアブル	7	4,000	収穫7日前	2回

※ミリオネアフロアブルを使用した場合、ミラビスフロアブルは同一系統の薬剤となり、連用となるので注意しましょう。

3 「アブラムシ類」の防除

寄生が確認されています。ほ場を十分に確認して、薬剤防除の要否を検討しましょう。

【要防除水準】

出穂10日後頃、ほ場のおよそ半分以上の穂で寄生が観察された場合に防除する。

表3 アブラムシ類防除例

害虫名	農薬名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期	回数(以内)
アブラムシ類	ゲットアウトWDG	3A	4,000	収穫21日前	3回
	スミチオン乳剤	1B	1,000	収穫7日前	1回

※「ゲットアウトWDG」は収穫21日前までなので、特に使用時期には注意しましょう(例:7月15日収穫なら6月24日まで)。

※スミチオン乳剤はアワヨトウ・ムギキモグリバエに登録あり

4 葉面散布による窒素追肥について

適正タンパク値の確保や粒重の増加を目的として窒素の葉面散布を行う場合、「尿素使用の場合は1.0~1.5%液を3回(窒素成分で1回0.5~0.7kg/10a)」で検討してください。

5 小麦「なまぐさ黒穂病」への注意

十勝では発生が確認されていませんが、注意が必要です。「なまぐさ黒穂病」に汚染された収穫物が乾燥貯蔵施設に混入した場合、施設全体が汚染されることとなり出荷不能になるなど、大きな被害をもたらします。感染している場合、乳熟期までには外観から症状が確認できるようになりますので、下記を参考に、万が一疑わしい株を発見したら、JAあるいは普及センターにお知らせください。

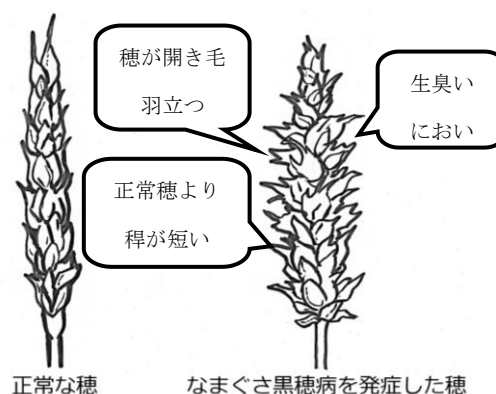


図1 なまぐさ黒穂病の特徴

< てんさい >

1 「褐斑病」「ヨトウガ」「アブラムシ」防除

下記薬剤で実施をお願いします。詳細は日甜ハガキを参照してください。

表4 褐斑病の防除薬剤例

防除時期	病害虫	農薬名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期(収穫前)	回数(以内)
6月22～25日頃	褐斑病	グリーンダイセンM水和剤 または グリーンペンコゼブ水和剤	M3	400	21日	5回
	ヨトウガ アブラムシ	リーズン顆粒水和剤	4A 15	3,000	14日	2回

2 中耕

- (1) 土壌の膨軟化と地温の上昇及び透水性の改善と畦間の除草のため、「カルチ」・「畦間サブソイラ」などを早期に施工し、初期生育の促進に努めましょう。
- (2) 中耕作業の深さと広さは根の広がりを確認し、生育初期には浅めに調整し、次第に狭く深くして畦間が茎葉で覆われる時期(草丈35cmくらい)までに実施しましょう。
- (3) 中耕時、株元まで土を寄せると根腐病の発生を助長するので注意しましょう。

3 除草剤散布

- (1) 除草剤のポイントは適期処理にあります。気象条件や土壌水分等を考慮し、実施しましょう。
- (2) 直播てん菜は移植栽培と登録基準が異なるので注意しましょう。

※日甜ハガキ情報や「農作物病害虫防除基準・除草剤使用基準」を参照して適切な防除を実施してください。

< ばれいしょ >

1 「疫病」の防除

ばれいしょ疫病菌は 10℃を超えると活動が始まり、最適気温 18～20℃の多湿条件で多発します。特に、冷涼多湿な環境や水たまりのできやすい凹地(排水不良箇所)、トラクタの車輪のぬかるんだところ(防除畦など)、生育が過繁茂気味のほ場や風通しの悪いところ・山あい・防風林の影などでは発生しやすく注意が必要です。

★疫病発生予察システム(FLABS)による発生予察(6/15現在・萌芽日設定:5/22)★

(観測地点)	(危険期到達日※)	(予測初発日)	(防除開始目安)
帯広	6月8日	6月28日	6月15日
糠内	未達(14ポイント)	—	—

※萌芽日以降、気温と降水量から、毎日の疫病発生の好適指数を計算し累積が「21」に達した日

- (1) 初発前に必ず防除: ほ場をよく観察し、基本は予防防除に努めてください。
- (2) 初回の防除前に感染が疑われる場合: 治療効果のある薬剤を使用。
- (3) 作物の生育に応じた薬剤選択: 茎葉の生長段階では浸透移行性のある薬剤を使用。
- (4) 降雨に応じた薬剤選択: ほ場に入れない状況が予想される場合は、Wインターバル(14日間隔)効果のある薬剤※の使用を検討してください。

※【Wインターバル対応薬剤例】

「リライアブルフロアブル 800 倍」、「プロポーズ顆粒水和剤 750 倍」、「ライメイフロアブル 2,000 倍」、「レーバスフロアブル 1,500 倍」、「ランマンフロアブル 1,000 倍」、「フロンサイド SC 1,500 倍」(平成 25 年度指導参考)。

表5 疫病の防除薬剤例

農薬名	RAC コード	使用倍率(倍)	使用時期 (収穫前)	使用回数 (以内)	効果の 発現
グリーンダイセン M 水和剤	M3	400～600	7日	10回	予防
リライアブルフロアブル	43、28	800～1,000	7日	3回	予防・治療
ゾーベックエンカンティア SE	49、11	2,000	14日	3回	予防・治療
フロンサイド SC	29	1,000～2,000	7日	4回	予防
プロポーズ顆粒水和剤	40、M5	750～1,000	7日	5回	予防・治療

※「フロンサイドSC」は 1,000 倍で菌核病、2,000 倍で夏疫病に登録あり。花の落ちる時期に合わせて検討する。

※「プロポーズ顆粒水和剤」は夏疫病に登録あり。

2 「軟腐病」の防除

軟腐病は高温多湿条件で多発しますが、本格的な軟腐病防除は、開花期以降(7月上中旬)となります。そのため、早い時期の疫病防除に併せて実施する必要はありません。ただし、強風や培土作業等で茎葉が傷ついた場合は、傷口からの感染を防ぐため防除を行いましょ。初期防除を心がけ、生育量に応じて散布水量を調節しましょう。

表6 軟腐病の防除薬剤例

農薬名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期(収穫前)	回数(以内)	効果の発現
スターナ水和剤	31※1	1,000	7日	5回	予防・治療
バクテサイド水和剤	41,25※2,M1	750~1,000	7日	5回	予防・治療
マテリーナ水和剤	31※1,25※2	1,000	7日	3回	予防・治療
カスミンホルター カッパーシン水和剤	24,M1	500~800	7日	3回	予防・治療
マスタピース水和剤	生物農薬	1,000	前日	—	予防

※1 オキシリニック酸(RACコード31)に対する低感受性菌が出現している地域があるので、連用は避ける。また、オキシリニック酸(RACコード31)を含む剤の使用は合計5回までとする。

※2 ストレプトマイシン(RACコード25)を含む剤の使用は合計5回までとする。

3 「アブラムシ類」「オオニジュウヤホシテントウ」「ナストビハムシ」の防除

本年はアブラムシの発生期が「早」、発生量は「やや多」と予想されています(北海道病害虫防除所「6月予報」)。林地や防風林近くの多発に注意し、ほ場をよく観察し、害虫の発生状況に応じて防除を実施してください

表7 アブラムシ類・オオニジュウヤホシテントウ・ナストビハムシの防除薬剤例

農薬名	RACコード	対象害虫			使用濃度(倍)	使用時期(収穫前)	使用回数(以内)
		アブラムシ類	オオニジュウヤホシテントウ	ナストビハムシ			
モスピラン SL 液剤	4A	◎(ワタ)	◎	◎	4,000	7日	3回
アドマイヤー顆粒水和剤	4A	◎ (ジャガ/モモ/ワタ)	◎ 15,000倍		5,000 ~ 15,000	14日	2回
アクタラ顆粒水和剤	4A	◎3,000倍 (ジャガ/ワタ)	○ 2,000倍	◎2,000倍	左記参照	14日	3回
ベジホン乳剤	1B、 3A	◎ (ジャガ 1,000/ ワタ 2,000倍)		◎1,000倍	左記参照	30日	2回
ペイオフ ME 液剤	3A	◎ (ジャガ 2,000/ ワタ 1,000倍)	◎ 2,000倍	○	1,000 ~ 2,000	7日	4回
ゲットアウト WDG	3A	◎ (ジャガ 2,000倍/ モモ 3,000倍)		◎ 3,000倍	2,000 ~ 3,000	7日	4回
マブリック EW	3A	◎(ジャガ)			4,000	7日	2回
※モベントフロアブル	23	◎(ワタ)			4,000	7日	3回
ウララ DF	29	◎ (ジャガ/モモ/ワタ)			4,000	7日	2回
コルト顆粒水和剤	9B	◎ (ジャガ 4,000・6,000/ モモ・ワタ 4,000倍)			4,000 ~ 6,000	前日	3回
ビレスコ顆粒水和剤	4C	◎			5,000 ~ 10,000	7日	3回
セフィーナ DC	9D	◎			2,000 ~ 4,000	前日	2回

※ジャガ:ジャガイモヒゲナガアブラムシ、モモ:モモアカアブラムシ、ワタ:ワタアブラムシ

※◎は登録があり、道ガイドに掲載されているもの、○は登録があるもの(以下、同じ)

※モベントフロアブルは銅ストマイ水和剤とは混用しない(ストレーナに付着物が生じる)。また、ストレプトマイシン含有殺菌剤との混用の場合は、モベントフロアブルを先に希釈する。

<豆類>

1 中耕

初期生育を確保するために、除草剤の残効を考慮しながら、暖かい日に中耕を実施し地温の上昇を図りましょう。また、遅い中耕や培土は、断根による養分吸収阻害の程度が大きくなるので、開花始 10 日前まで(7 月上中旬頃)には最終の培土を終えましょう。

2 大豆「わい化病」・金時「黄化病」(ジャガイモヒゲナガアブラムシ)の防除

病虫害発生予察情報によると、ジャガイモヒゲナガアブラムシの発生期は「早」・発生量は「やや多」と、飛来時期は早い予測となっております。以下の通り防除を実施して下さい。

表8 大豆「わい化病」・菜豆「黄化病」の防除例

病害名	薬剤名	使用濃度	使用時期(収穫前)	回数(以内)
大豆「わい化病」 菜豆「黄化病」	ペイオフME液剤	2,000 倍	7日	3回

防除時期: クルーザーを使用していない場合…出芽揃～初生葉展開期に1回目、6月中下旬に2回目

クルーザーを使用した場合…6月中下旬(は種後1ヶ月程度をめぐりに)の1回

3 小豆「茎疫病」の防除

連作ほ場や排水の劣る場所で発生することがあります。発病後の茎葉散布では効果が得られないため、発生が予想されるほ場は、予防防除や溝切りによる排水を実施してください。

表9 小豆「茎疫病」の防除薬剤例

農薬名	RACコード	使用倍率(倍)	使用時期(収穫前)	使用回数(以内)
ランマンフロアブル	21	1,000	7日	3回
レーバスフロアブル	40	1,500~2,000	7日	3回
リドミルゴールドMZ	M3, 4	500	30日	3回

4 小豆「チョウ・ガ類」「アブラムシ類」の防除

マメアブラムシは局所的に多発生するので、ほ場をよく観察し寄生が目立ったら早急に防除してください。

表10 小豆チョウ・ガ類、アブラムシ類の防除薬剤例

対象害虫	農薬名	RACコード	使用倍率(倍)	使用時期(収穫前)	使用回数(以内)
アズキノメイガ ツメクサガ	トクチオン乳剤	1B	1,000	30日	2回
アブラムシ類	モスピランSL液剤	4A	2,000~4,000	14日	3回
	ウララDF	29	4,000	7日	2回
アブラムシ類 アズキノメイガ	スミチオン乳剤	1B	1,000	21日	4回
	オルトラン水和剤	1B	1,000	14日	3回

5 菜豆(金時)「かさ枯病」の防除

かさ枯病に罹病すると本葉に赤褐色の斑点が生じ、周辺部が黄色くなり葉脈はすじ状に赤褐色を呈し激しい場合は株が黄変し枯死します。本病は低温多湿で発生しやすく、機械管理作業の接触でまん延します。発生が予想される場合は 6/3 号を参照し防除して下さい。

6 菜豆の「根腐病」発生時の対策

発芽後数週間で感染が起こり、6月中～下旬に降雨と高温が続くことで発病が激しくなります。発病株を発見したら、健全部の新根の発生を促すため、早期に培土しましょう。

野 菜

<ながいも>

1 トレンチャー耕の陥没対策

集中豪雨に伴う栽培畦の陥没を未然に防ぐため以下の対策を行ってください。

- ・培土により、畦間からの雨水の浸入を抑制する
- ・ほ場外周や雨水が流れ込みやすい場所には溝を掘り、雨水流入を防ぐ

2 中耕

6月下旬頃から根が畦間に伸び始めます。遅くなると根を切る可能性があるため、7月上旬までに中耕を終わらせましょう。

3 アブラムシの防除

アブラムシはウイルス病を媒介します。特に種子ほ場では、アブラムシの発生が確認された際は防除を実施してください。

表11 アブラムシの防除薬剤(例)

薬剤名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数
ゲットアウト WDG	3A	3,000	前日	3回以内
コルト顆粒水和剤	9B	4,000	前日	3回以内

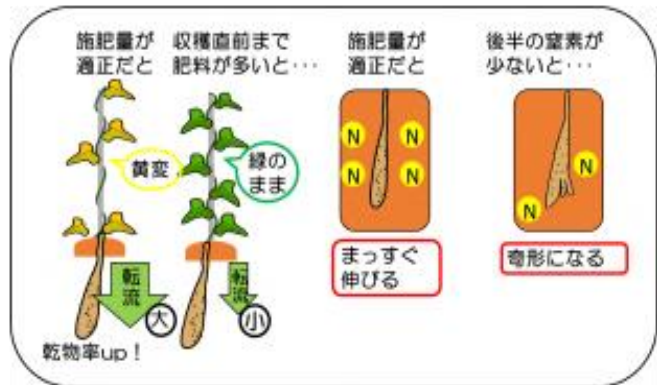
薬剤散布の際はJAや部会などで決められた薬剤使用や使用基準を遵守してください

4 除草剤の生育期処理

- ・畦間土壌処理は、茎葉(下葉)に飛散しないように行ってください。

5 分肥の施用時期

- ・分肥を行う場合は、7月中旬までに実施してください。
- ・とちかち太郎は従来品種(音更選抜)より後半の生育が旺盛です。緩効性肥料を使用していない場合は、安定栽培のため分肥を実施してください。
- ・過剰な分肥や多肥ほ場における分肥は黄変期の遅れによる乾物率低下の原因になります。分肥する際は基肥量も確認し、適正範囲内で実施してください。



～～農薬の安全使用と農作業安全に努めましょう～～

□農薬危害防止活動の実施

- ★農薬の使用基準や注意事項を確認し遵守しましょう。
- ★除草剤等の散布でスプレーヤを使用する際には周辺作物への飛散防止に努めましょう。
- ★農薬は必ず保管庫にしまい、カギをかけましょう。
- ★使用した農薬容器や袋は、適切に洗浄や処分しましょう。
- ★農薬散布の際はマスク、防除衣、ゴム手袋、帽子、防除用メガネ、長靴、肌を覆うタオルを身につけ、しっかり安全対策をとりましょう。

□春の農作業安全運動強調月間(4～6月)

- 「焦り」や長時間作業の疲れによる「不注意」などに伴う農作業事故の発生が懸念されます。
- ★機械の調整・整備等の際は、必ずエンジンを止めましょう。
 - ★必ず機械を止めてから乗り降りしましょう(飛び乗り、飛び降りはいし)
 - ★二人以上で作業する時や危険と思われる作業に入る前には、必ず声を掛け合しましょう。

土壌診断を活用しましょう

土壌診断を実施し、適切な肥料選定をすることで、養分バランスの適正化とコスト節減に活用しましょう。
特にリン酸・カリの蓄積が進んでいるほ場が多い傾向にありますので、土壌診断に基づき、適切な施肥設計を行いましょう。
※生育期間中でも、畝間から土壌サンプルの採取は可能です。